

ベルマーク新聞 3月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

チリも積もれば除雪機に

岩手・奥州市立水沢小学校が購入



④新しい除雪機を囲む、情報委員会の子どもたちと用務員の四谷守さん
⑤⑥除雪機の威力にびっくり！
⑦⑧マークの点数別の仕分けと集計は、PTAの施設委員会が担当

各地で記録的な大雪が降った今冬。岩手県の奥州市立水沢小学校(朝倉啓二校長、児童 586 人)はベルマーク預金でパワフルな除雪機を購入しました。「チリも積もれば除雪機になる」。届いた翌日から除雪機はフル稼働しました。

昨年 12 月、奥州市にも大量の雪が降りました。「例年の数倍の量」とベルマーク担当の大坂下(おおさかした)勝江先生。市内では農業用のビニールハウスが倒壊する被害もあったそうです。でも学校には古い除雪機しかなく、先生や 6 年生の子どもたちまでがスコップで雪かきするような状況でした。

そこで、ベルマーク預金で除雪機を更新することにしました。同校は累計 700 万点超のベルマークを集めている県内のトップ校で、その時点の残高が 60 万円

以上もあったからです。

でも「お買いものガイド」の商品に除雪機は見当たりません。ベルマーク財団に相談した結果、すぐに取り寄せるのは難しいと分かり、一度は購入を諦めました。ところがその後も大雪は続き、1 月上旬には校庭の積雪が 1m に達しました。「もう限界。ベルマークだけが頼り。私たちを助けて」

協力会社の東通産業が尽力し、水沢小の希望する除雪機を仕入れることに成功しました。担当者の中村正治さんによると、ベルマークで除雪機を扱うのは初めてでしたが、福島県の取引先を通じて探し当てたそうです。同校は預金を全額使い切って購入しました。

1 月 29 日、待望の除雪機が届き、先生たちが玄関先まで出迎えて受け取りま

した。「涙が出そうでした」と大坂下先生。着荷を知らせるハガキに大坂下先生が書いた喜びの言葉が「チリも積もれば除雪機」でした。

新しい除雪機を操作するのは用務員の四谷守さん。「軽くて体に負担がかからず、作業が楽になった。除雪後の道は平らで側面も崩れにくく、子どもたちが安全に歩けます」と喜んでいるそうです。

大坂下先生は校内のテレビ放送を通じて、ベルマークで除雪機を買ったこと、学校の累計点数が 700 万点を超えていることを伝えました。子どもたちからは「また頑張ってマークを集めよう」といった声が聞かれたそうです。

「これからも、ベルマークをコツコツと貯めれば大きなものになると、子どもたちに伝えていきたいです」と大坂下先

生は話してくれました。



水沢小では子どもたちと保護者が協力してベルマーク活動をしています。5、6 年生の情報委員会がマーク回収と会社別のまとめを担当。その後の集計は PTA の施設委員会がします。2 年生以上のクラスに置く回収箱は、あらかじめ会社番号別に分かれた箱で来ています。

水沢小のみなさん、
雪に負けず頑張るね



コロナ禍で「新しいスタイル」の試みも

防災科研の令和2年度成果発表会

ベルマーク財団と防災科学教室を共催している国立研究開発法人防災科学技術研究所(防災科研)の「令和2年度成果発表会」が2月10日、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開かれました。

コロナ禍をうけた「新しいスタイル」として、ポスター掲示による発表に代わり、100人を超す研究者が各3分程度の動画を作って昨年12月、ウェブ上で公開しました。この日はその中から評価の高かったベスト10を発表、さらに防災科研内の二次評価を経た「優秀研究動画賞」として3人の研究者の動画が上映されました。

今後30年以内に高確率で起こるとされる南海トラフ地震をめぐるパネルディスカッションもあり、特別ゲストコメンテーターとして招かれたジャーナリストの池上彰さんが「国や専門家が一般の人にどう避難や警戒を呼びかけるのが課題」と問いかけました。

全体のメインテーマは「来るべき国難級災害に備えて」。コロナ対策で会場への入場者は約60人に絞った一方、ウェブ会議システムなどで内容を同時配信し、1100人以上の方々がプログラムに参加しました。来年、再来年もこのテーマを続けていくそうです。



コロナ対策のため入場者数を絞って開かれた成果発表会